

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 まず本文を声に出して読み、そのあと傍線の番号を手がかりに解きます。答え合わせは解答編PDFで。**この段の山は、歌の「や」(疑問・反語の両説)と「ぬ」の識別**です。

あらすじ=男が深く思いをかけて通っていた女が、正月の十日ごろによそへ姿を隠す。会いに行ける相手ではなくなり、男はつらいまま一年を過ごす。翌年の正月、男はひとり思い出の場所を訪れ、歌をよむ。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

むかし、東(ひむがし)の五条に、大后(おほきさい)の宮^①おはしましける西の対(たい)に、住む人ありけり。^②それを、本意にはあらで、心ざし深かりける人、^③行きとぶらひけるを、^④正月の十日ばかりのほどに、ほかに^⑤隠れにけり。あり所は聞けど、人の行き通ふべき所にも^⑥あらざりければ、なほ憂(う)しと思ひつつ^⑦なむありける。

またの年の正月に、梅の花ざかりに、^⑧去年を恋ひて行きて、^⑨立ちて見、みて見、見れど、去年に^⑩似るべくもあらず。うち泣きて、^⑪あばらなる板敷(いたじき)に、月の傾(かたぶ)くまで伏(ふ)せりて、去年を思ひ出でて^⑫詠める。

^⑬月やあらぬ^⑭春や昔の春ならぬ^⑮わが身ひとつはもとの身にしてと詠みて、夜のほのぼのと明くるに、泣く泣く帰りにけり。

語注 東の五条=平安京の五条大路のあたり(東の京)。大后の宮=皇太后。ここは五条后とよばれた藤原順子を指すとされる。心ざし=愛情・思い。あり所=居場所。憂し=つらい・情けない。またの年=翌年。花ざかり=花の盛り。板敷=板を張った床。伏す=横になる。ほのぼのと明く=夜がうつすらと明るくなる。※この段の女は、のちに二条の後となる藤原高子を思わせる人物として語られる。

月やあらぬ

A 語句の意味と読み (1～7)

- (1) ②「本意」の読みを歴史的仮名遣いの平仮名で書き、ここでの意味を書け。
- (2) ③「行きとぶらひける」の「とぶらふ」の意味を書け。
- (3) ④「正月の十日ばかり」の「正月」の読みを平仮名で書き、陰暦では何月にあたるか、また今の暦ではおよそいつごろかを書け。
- (4) ⑤「隠れにけり」の「隠る」は、ここではどのような意味か。
- (5) ⑧「去年を恋ひて」の「去年」の読みを平仮名で書き、意味を書け。
- (6) ⑨「立ちて見、ゐて見、見れど」の「ゐて」について、終止形と意味を書け。
- (7) ⑪「あばらなる」の終止形と意味を書け。

B 文法 (助動詞・助詞・係り結び) (8～13)

- (8) ②「本意にはあらで」の「で」について、品詞と意味、接続する活用形を書け。
- (9) ⑤「隠れにけり」の「に」は何の助動詞の何形か。そう判断できる理由も書け。
- (10) ⑥「あらざりければ」の「ば」は何形に接続し、どのような意味を表すか。
- (11) ⑦「なむありける」の「なむ」の品詞と意味を書け。また、文末が「ける」となっている理由も書け。
- (12) ⑫「詠める」の「る」はもとは何の助動詞の何形か。また、なぜその形で文が終わっているのかを書け。
- (13) ⑬「月やあらぬ」の「ぬ」は何の助動詞の何形か。完了の「ぬ」ではないと判断できる理由も二つ書け。

C 主語と敬意の方向 (14～18)

(14) ①「おはしましける」の敬語の種類を書き、誰から誰への敬意を書け。

(15) ②「それを、本意にはあらで」の「それ」は何を指すか。

(16) ③「行きとぶらひける」の主語は誰か。

(17) ⑤「隠れにけり」の主語は誰か。

(18) ⑫「詠める」の主語は誰か。また、そう判断できる根拠となる直前の動作を本文中から二つ抜き出せ。

D 口語訳 (19～22)

(19) ⑦「なむありける」を含む一文「なほ憂しと思ひつなむありける」を現代語訳せよ。

(20) ⑩「似るべくもあらず」を、「べく」の意味がわかるように現代語訳せよ。

(21) ⑬・⑭「月やあらぬ春や昔の春ならぬ」を、「や」を疑問と取る説にしたがって現代語訳せよ。

(22) ⑬・⑭「月やあらぬ春や昔の春ならぬ」を、「や」を反語と取る説にしたがって現代語訳せよ。

E 内容・記述 (23～25)

(23) ⑨「立ちて見、みて見、見れど」のように似た動作をくり返して書いているのは、男のどのような気持ちを表すためか。三十字以内で書け。

(24) ⑮「わが身ひとつはもとの身にして」には男のどのような思いがこめられているか。「変わったもの」と「変わらないもの」を対比させて、八十字以内で書け。(⑬・⑭の「や」を疑問と取る説・反語と取る説のどちらで答えてもよい。)

(25) ⑬～⑮の歌をよんだあと、男が「泣く泣く帰りにけり」となったのはなぜか。「またの年の正月」に男がしたことをふまえ、本文に即して百二十字以内で書け。

F 文学史・古典常識 (26～28)

(26) 『伊勢物語』のジャンル名(～物語という呼び方)を書き、作者について書け。

(27) 『伊勢物語』の主人公「むかし男」のモデルとされる平安時代の歌人は誰か。また⑬～⑮の歌が収められている勅撰和歌集の名を書け。

(28) 本文の「西の対」とは、寝殿造りのどのような建物か。簡潔に書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「月やあらぬ」「春ならぬ」の「ぬ」は打消「ず」の連体形。直前が未然形「あら」「なら」なので完了ではありません。係助詞「や」の結びとして連体形になっている、と説明できれば満点です。 ②「や」は疑問説と反語説の両方がある。どちらか一方に決めず、二通りの訳を書けるようにしておけば、「疑問で訳せ」「反語で訳せ」「両説を説明せよ」のどれで問われても対応できます。 ③読みは「正月＝むつき」「去年＝こそ」「本意＝ほい」の三つ。これに「なむ…ける」の係り結びと、「おはします」＝作者から大后の宮への敬意を足せば、記述の得点源がそろいます。